

Weekly Market Report

Nov.15.2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

1週間ぶりの114円台乗せ。今週も底堅い展開か。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は、ドル買い優勢。主要中銀イベントを通過し、週初は米当局者のハト派タカ派まちまちな発言や、米債利回りの低下を受けドル円は一時112円台後半まで下落したものの、10日公表の米CPIが1990年以来の大幅な伸びを記録し予想比上振れとなったことを受け米長期金利が急騰。連れる形でドル円は約1週間ぶりに114円台をつけドル全面高に。ただ、週末にかけて米ミシガン消費者指数の約10年ぶりの低水準の結果やポジション調整が入り小反落、113円台後半での越過。今週は、引き続き底堅い展開か。米小売売上高など注目指標のほか、複数の米当局者発言などが控えているが、114円台前半では上昇の勢いが鈍化しており、年初来高値も控えていることから上値重く推移するだろう。(市場商品部/為替CDG)

今週の経済指標 (予定)

| 日付 | イベント | 予想 |
|----------|-------------------|---------|
| 11/15(月) | (日本) GDP | -0.7% |
| 11/16(火) | (英国) 雇用統計 | - |
| 11/16(火) | (米国) 小売売上高 | 1.3% |
| 11/17(水) | (日本) 貿易統計 | -3,100億 |
| 11/18(木) | (米国) フィラデルフィア連銀指数 | 24.0 |

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|------|-----------------|--|
| 嵯峨大輝 | 113.00 - 115.00 | 引き続き重要指標や米金利の動きには注意が必要だが、材料乏しく、方向感の出ない展開になると予想。 |
| 三原大希 | 113.40 - 114.70 | 米小売売上高などの経済指標は良好な結果が予想されるものの、CPIほどのサプライズにはならず、上値は限定的と予想。 |

2. 円金利相場概況

米CPI結果を受けて円金利は上昇。今週は米当局者の発言に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



(出所) Bloomberg

コメント

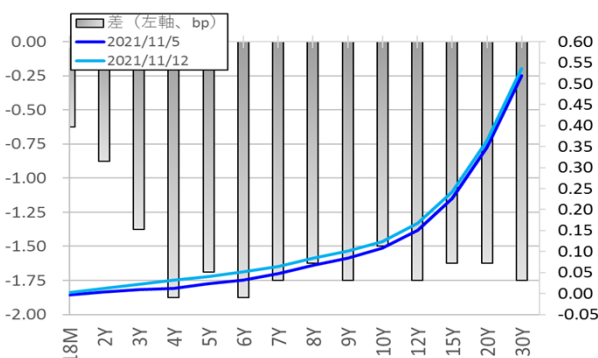
先週の円長期金利は週初の0.05%台から週末にかけて0.07%台まで上昇する展開となった。

週前半の円金利相場は、入札や日銀オペがなかったことから、8日は一時1カ月ぶりの低水準となる0.05%近辺まで低下してスタート。ただ、円金利の低下は長くは続かず、同日夜に米国において1兆ドル規模のインフラ投資法案が可決されたことを受け、米金利が大幅に上昇したこと等から、翌9日に円長期金利は0.06%台半ばまで上昇。週中から週末にかけても、米長期金利が1.5%台後半で高止まりしたことや、日米株式の上昇等を受け、円長期金利は上昇し基調を維持し、0.07%台半ばまで上昇して週の取引を終えた。

予想外に強い米CPI結果を受けた、米金利の上昇は一服した可能性があるものの、米CPI結果を受けた米当局者の発言次第では、再び米金利上昇⇒円金利上昇となる展開も考えられることから、今週は、米当局者の発言に注視したいと考える。(市場営業部/梅村)

金利スワップ変化（1週間）

(%)



5年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|------|-----------------|---|
| 内田直樹 | 0.050% - 0.085% | 円金利は足下レンジ内での推移を予想。国債増発の有無や規模感、米金利動向を意識しつつ、方向感を探る展開か。 |
| 廣瀬友絵 | 0.060% - 0.090% | 米国のインフレ長期化の警戒感や長期金利の上昇懸念の中、投資家の上値追いは慎重で、国内金利の上昇は限定的か。 |

3. 今週のトピックス

豪ドル相場アップデート

11月RBAの金融政策決定会合概要と豪州経済動向

RBA金融政策決定概要と各国利上げ時期

豪州準備銀行(以下RBA)は2021/11/2に開催された金融政策決定会合で、「政策金利の0.1%据え置き」と「週40億豪ドルの国債買い入れ継続」を決定し、ハト派的な姿勢を示した。一方、これまで0.1%に設定していた2024年4月に償還される国債利回り目標については廃止すると表明。また、声明文では「2024年までにこうした状況(政策金利が引き上げ可能な状況)になるとは予想していない」という文言は削除され、記者会見では「2023年に政策金利が引き上げられる可能性もある」とロウ総裁が発言し、利上げ時期が前倒しされる可能性を示唆した。

10月末のECBから開始された、各国の金融緩和縮小や利上げに対する論調は、いずれもハト派的な見解が目立ち、特に11月BOEの利上げ見送りは英国だけでなく日本を含む主要国の金利低下要因となった【図1】。

豪州経済動向

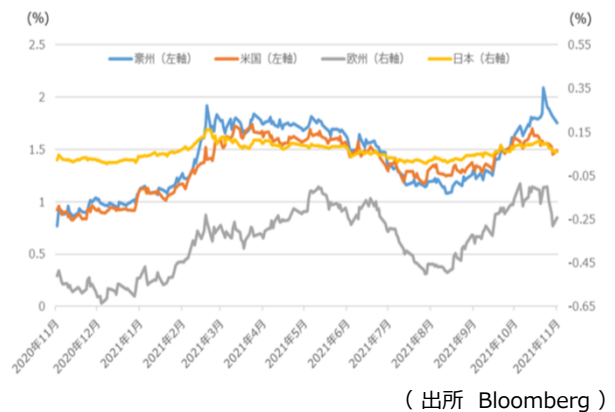
RBAがインフレ度合いを計る上でも重要視しているCPIトリム平均値の第3四半期の結果は、前年同期比2.1%と高水準を維持する形となった。従前の予想では都市部のロックダウンが長期化したことで、弱い数値が予想されていたが、結果としては2014年6月ぶりの高水準であった。豪州最大の輸出品目である鉄鉱石は、8月末に中国が減産計画を立てたことで価格が急落したが、エネルギー価格の高騰による石炭価格が上昇したことで【図2】、貿易収支は堅調な結果(8月150億ドル、9月122億ドル)を維持した。第4四半期以降はワクチン接種の進展からロックダウンが解除されるなど、コロナ禍からの回復がみられ、豪州経済動向に対しては前向きな期待が高まりつつあるが、中国が石炭メーカーに厳しい行政指導を開始した事等で11月以降の石炭価格は急落しており、今後の資源価格動向には注目が集まっている。

RBA後の豪ドル動向

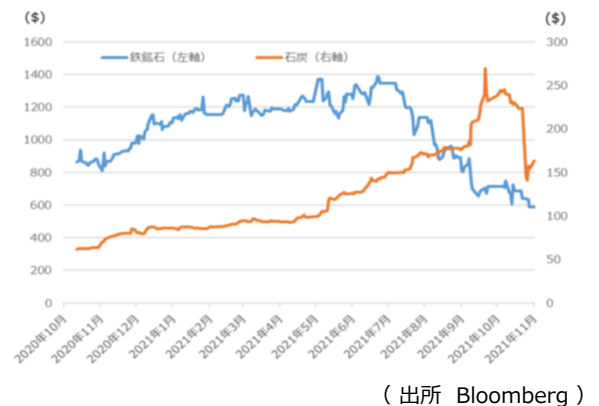
豪ドルは、RBAでハト派的な姿勢が示されたことで、一時的に対円、対米ドルともに下落したが【図3】、11/5以降はすぐに買い戻されている。上述の通り、各国での利上げ時期の変更は為替相場に影響を与える事から、各国の金融政策については引き続き注視していきたい。なお、豪州はロックダウンからの経済回復が進んでおり、それに伴い利上げ期待も高まりつつあることから、豪ドルは当面買われやすい地合いが続くと予想する。

一方で鉄鉱石や石炭などの豪州の主要輸出品の価格低下が進んでおり、貿易収支等の経済指標悪化による、急な豪ドル安には警戒が必要だろう。(市場営業部 三原)

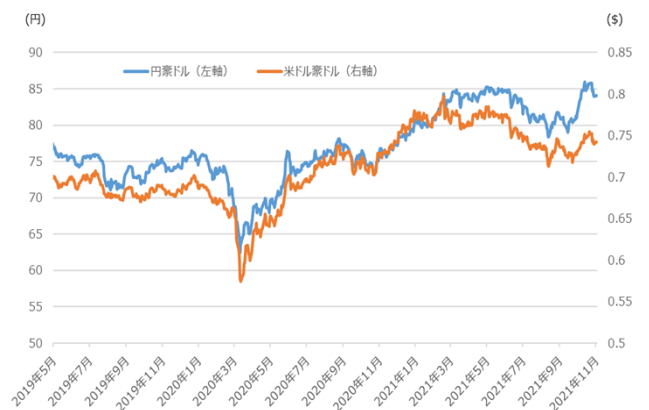
【図1】各国10年債利回りの推移



【図2】鉄鉱石、石炭価格の変化



【図3】対円、対米ドル推移



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会